

宿場町枚方を考える会 結成30周年記念事業 歴史入門講座を開催

宿場町枚方を考える会は昭和60年3月、三矢町の浄念寺において結成総会を開きました。以来、諸先輩の熱意と尽力により、平成27年に結成30周年を迎えることができました。

これを祝し、いくつかの記念事業を企画していますが、そのひとつが枚方の歴史入門講座で、6月から10月にかけて5回の座学を開催しました。また、7月と8月の夏期を除いた3回は、講座に関連した史跡見学も実施しました。企画段階では数十人程度の参加者を想定しておりましたが、

全講座とも百人を超える盛況となり、講師を務めた役員を始め、本会関係者にとって嬉しい誤算となりました。



第1回目の講座（6月16日）

歴史講座以外では、本号の発行日である11月15日にメセナひらかた多目的ホールにおいて、記念事業として大阪府教育委員会文化財保護課副主査の西川寿勝さん、堺女子短期大学名誉学長の塚口義信さんを招いての講演会と資料展示を実施します。



第2回講師の榊原啓雄さん



第82号

発行

宿場町枚方を考える会
会長 堀家 啓男
072-892-5504

事務局

枚方市出口2丁目6-6
上野幸夫 072-832-5722

編集 広報委員会

主な内容

- 枚方の歴史入門講座を開催（1頁）
- 牧野地域を散策（2頁～4頁）
- バスツアー坂本・鳥居本（5頁～6頁）
- 東海道シンポジウム見附（7頁～8頁）
- 高野山の仇討ち（9頁～11頁）

近郊を歩く会

牧野地域を散策

三栗 石川 勲

平成27年度に入った4月9日、「近郊を歩く会」と題して牧野地域を散策しました。昭和40年代から枚方に住み、牧野にも居を構えたこともあるのに、初めて訪れたところもあり、新しい発見がありました。

前日には雨が降り、天候が心配でしたが、当日の朝方は少し寒かったものの晴れとなり、牧野駅東口には会員など25人が集まりました。

前島街道の道標

最初に案内されたのは「左前島街道」の道標です。前島街道とは、京街道の枚方牧野と西国街道の高槻を結んでいた街道のことで、淀川には対岸の前島と結ぶ「前島の渡し」がありました。

牧野公園

次は清岸寺を経て牧野公園に向かいました。「枚方八景のひとつ、「牧野の桜」が美しい花を咲かせていました。公園の一角というより、中心には「阿弓流為（あてるい）」と「母禮（もれ）」の首塚があります。その前方には、平成13年3月に建立さ



「伝阿弓流為・母禮之塚」があります。

今から約1200年前、現在の東北地方は蝦夷が統治していました。朝廷から派遣された征夷大將軍坂上田村麻呂以下の征討軍は激しい抗戦に遭いながらも、延暦21年（802年）、主将の阿弓流為と副将の母禮を降伏させました。

坂上田村麻呂は2人を伴って帰京、2人の助命を嘆願しましたが処刑されてしまいました。そして葬られたのが、

ここ牧野とされています。ただ、埋葬品の発見など学術的な根拠はなく、あくまで民間伝承です。なお、牧野公園は、隣にある片笠神社の旧社地だったことから、塚は同神社が管理と祭祀を行っています。

片笠神社

次に向かったのは片笠神社です。「片笠（片野、交野）」はこの一帯の古名です。社伝によると、第11代垂仁天皇の時代に、出雲の豪族である野見宿禰が当麻蹴速との相撲に勝ち、恩賞として当地一帯を拝領、出雲の租神「素盞鳴尊」を祀って土師氏（野見宿禰を始祖とする）一族の鎮守としたのが始まりです。

かつては広大な社地を有していましたが、戦国時代の兵火に遭い荒廃しました。それを豊臣秀吉が修復、大坂城の

築城の際、長（うしとら・東北）の方角に当たるため、錦城（大坂城）の鬼門鎮護の社と決めました。なお、豊臣秀頼が再建した本殿は国の重要文化財に指定されています。



私事で恐縮ですが、牧野本町に住んでいた頃、ここでももの七五三参りをしました。数十組の親子が一堂に会する官幣大社（5頁参照）の大神社とは違い、ここでは我が家だけの祝詞とお祓いを受け、下世話ですが霊験もあらたかに感じたものです。

九頭神廃寺

続いて牧野本町1丁目にある九頭神廃寺に向かいました。北河内では最も古く建立された古代寺院のひとつで、飛鳥時代後期から奈良時代に創建されたといわれ、平安時代中期に衰退、廃絶したと考えられています。

明治時代に、かつては寺域だった京阪牧野駅の東側、穂谷川右岸の台地から白鳳時代の仏像が発見され、平成9年に「九頭神廃寺出土銅造誕生釈迦仏立像」として市の有形文化財に指定されています。

現在、史跡となっている一帯では、高句麗系の軒丸瓦が出土し、昔から九頭神廃寺の存在は知られていましたが、一帯は宅地化により住宅地になっていきます。昭和58年から調査を始め、塔基壇跡が発見

され、平成19年には市の史跡に指定、史跡公園として整備されました。

牧野車塚古墳

続いて車塚1丁目にある牧野車塚古墳を見学しました。車塚1丁目といってもピンと来ない方もおられると思いますが、旧関西外国語大学（現在の枚方市教育委員会）の西側にあります。



出土遺物や形状から古墳時代前期（4世紀前半）築造の

前方後円墳とされ、全長107.5m、後円部径58m、前方部幅45m、周囲には幅10mの空濠があります。墳丘は2段になっており、北河内地域の首長の墓とみられています。大正11年3月8日に国の史跡に指定されています。

続いて、近くにある枚方市立中央図書館で旧陸軍禁野火薬庫爆発時の記録写真を見学しました。その後、隣りの車塚公園で昼食をいただきました。

車塚公園

車塚公園は広い公園で、芝生広場や噴水があり、家族連れなどの憩いの場となっています。また防災設備を備えており、一時避難地としての防

災公園ともいわれています。例えば四角形のマンホール、蓋を開けると非常トイレとな

ります。これが52基。ベンチの座面を外すと、その下には炊き出し用のカマドがあります。地下には貯水量100トンの耐震性貯水槽があり、5000人の避難者に3日間、1日3リットルの飲み水を提供できます。

杉ヶ森神社

昼食後は、片鉾本町にある杉ヶ森神社に向かいました。

ここは片鉾郊祀壇（かたほここうしだん）の伝承地となっているところです。郊祀壇とは、都の郊外で祭祀を行うための祭壇のことです。現地の説明板には次のように記載されています。

桓武天皇が長岡京遷都の翌年、延暦4年（785年）の11月10日に交野柏原の野に郊祀壇を設け、遷都を成し遂げた感謝の祈禱を行いました。

享保20年（1735年）に刊行された「河内志」には、祭天郊祀が行われたのは片鉾の地で、郊祀壇上には交野原の一本杉といわれる老杉があると記されています。しかし、確証はなく、杉ヶ森神社の南にあつたその老杉も明治の頃に枯れてしまい、また柏原という地名もどこを指すのかも不明です。枚方市教育委員会（一部省略）

山田神社

続いて田口1丁目にある山田神社に向かいました。参道の左右には石灯籠が並び、満開に近い桜のトンネルも見事でした。山田神社については延宝9年（1681年）の社寺改に「田口村氏神天神社」とあり、江戸時代の初期にはあつたとされています。

明治5年（1872年）、当

時の村名、山田村にちなみ山田神社に改称しています。

山田神社の本社は天満宮、その隣には撰社の春日社があります。これは天明6年（1786年）の社殿再建の際に、奈良の春日大社の社家であつた大中臣時春から春日社旧殿を譲り受けたものです。なお、神職は片桷神社の宮司が兼務され、常駐していません。



天満宮（左）・春日社（右）

山田神社の後は、田口氏之墓を経て交北公園まで歩き、そこで解散となりました。

大津市坂本 京都市嵯峨鳥居本

バスツアーで見学



日吉大社の西本宮

恒例のバスツアーは6月3日、大津市坂本の日吉大社と西教寺、そして京都市右京区の嵯峨鳥居本を訪ねました。

日吉大社

日吉大社は第10代の崇神天皇7年に創祀され、全国3800余の分霊社(日吉、日枝、山王神社)の総本宮です。織田信長の焼き討ちに遭い、建造物はすべてなくなりましたが、その後の復興により現在の姿となりました。

国の史跡である境内は約40万㎡、東西の本宮2社、さらに摂社だけで5社もあり、旧社格といわれる明治4年の太政官布告では官幣大社に位置付けされていました。

官幣大社とは最高ランクの社格で、大阪府下には5社しかありません。近くでは八幡市の石清水八幡宮、対岸島本町の水無瀬神宮が官幣大社です。なお、三重県の伊勢神宮は、すべての神社の上にあり、社格の対象外でした。

西教寺

西教寺は、日吉大社と同じ大津市坂本にある天台真盛宗の総本山です。西教寺縁起では聖徳太子の開基とされていますが、これは伝説の域をえません。寺名は天智天皇8年(669年)に西教寺の号を下賜されたことに由来してい

ます。室町時代の文明18年(1486年)に宗祖真盛上人が入寺し、天台念仏と戒律の道場として栄えました。しかし、織田信長の焼き討ちに遭い、消失しましたが、この地を与えられた明智光秀が復興に尽力しました。入口にある総門は坂本城の城門を移築したものといわれています。



西教寺総門

嵯峨鳥居本

昼食後は、京都市右京区にある国の重要伝統的建造物群保存地区、嵯峨鳥居本を訪ね

ました。バスの駐車場から保存地区に向かう途中で後を振り返ると、曼荼羅山にある鳥居形（大文字五山送り火の一つ）の火床が見えました。

現在の嵯峨鳥居本は愛宕神社の門前町として発展してきた町並みです。ボランティアガイドさんから愛宕街道の説明を聞きながら化野念仏寺を訪ねました。

化野念仏寺

寺伝によると、化野念仏寺は弘仁2年（811年）に弘法大師が五智山如来寺を開創野ざらしになっていた遺骸を埋葬したのが始まりとされています。その後、浄土宗の元祖法然上人が念仏道場を開き、念仏寺となりました。

境内にある約8000体の石仏・石塔は、明治36年（1903年）頃、化野に散在していた無縁仏を掘り出し、集

積したものです。



石仏・石塔

愛宕神社の一の鳥居

嵯峨鳥居本の北西側の端近くに愛宕神社の一の鳥居があります。朱色の鳥居が木々の緑に映えて厳かに感じられました。



西教寺で記念撮影

第28回東海道シンポジウム

見附大会に参加

八幡市 榊原啓雄

東海道シンポジウムとは、宿場間の交流と活性化を目的として、東京の日本橋から大阪の高麗橋まで、東海道57宿場のいずれかで開催される催しです。昨年は藤沢宿で27回目の大会が開かれました。28回目の今年は、9月5日～6日、静岡県磐田市の見附宿で開催され、約200人が参加しました。

見附宿の東隣にある袋井宿は、現在「東海道と真ん中」というキャッチフレーズで売出していますが、見附宿も江戸から60里、京都へは70里の場所であり、東海道のほぼ中間にある宿場町です。

「見附」は、「見付」とも書きます。名前の由来は、京都から東海道を下ってきた旅人が、初めて富士山を「見付け」る場所からきています。ここは10世紀に国府が置かれ、遠江国の中心として栄えた場所です。鎌倉時代には国衙と守護所が置かれ、中世としては東海道屈指の規模を持つ宿場町となりました。16世紀になると、町人による自治も行われていましたが、江戸時代に入ると自治権を失われ、単なる宿場町のひとつになっていきました。

宿場は、天竜川の左岸にあります。大井川と違って水深があつたため、主に船が使われており、大井川ほどの難所ではありませんでした。しかし、川止めるときは、島田宿などと同様に、足止めされた人々で賑わつたそうです。記録によると、見附宿は天保14年(1843年)当時、人口3095人・戸数1029戸・本陣2軒・脇本陣1軒・旅籠56軒がありました。



見付のゆるキャラ しっぺい

東海道シンポジウム見附宿大会の概要はおおむね次の通りです。

第一日目の午前、ボラン

ティアガイドによる史跡・文化財巡り（国指定史跡「遠江国分寺」・府八幡宮）でした。午後は、シンポジウムの第一部として「見付天神裸祭」（国指定重要無形民俗文化財）のDVD鑑賞と開会行事、さらに講演会と続きました。



講演会は、静岡大学名誉教授による講演、タイトルは「徳川家康と見付・磐田」です。紙面の都合で、ごく一部になります。宿駅（宿場）制度

についてのお話を紹介します。近世宿駅制度は、慶長5年（1600年）9月の関ヶ原の戦いからわずか3カ月余り、徳川家康が宿駅を設置し、制度として成立させました。

東海道では、慶長6年（1601年）の正月、ほぼ同時に宿駅が設置され、寛永元年（1624年）に庄野宿が追加されて、最終的な「五十三次」として整備されました。静岡県内では三島・白須賀までの22宿が設置されました。以上が講演の主旨です。

シンポジウムの第二部では、各宿場町参加者との交流会です。28回目の大会ということもあり、多くの参加者は、「やあ、お久しぶり」などとお互いの旧知の間柄でした。古くからの友人同士の語らいが少々羨ましくもありました。まるで東海道宿駅会議の同窓会の

ような雰囲気がありました。この交流会の最後に来年の開催場所が発表されました。名物「とろろ汁」で有名な山あいの小さな宿場町、「鞆子（丸子）」が29回目のシンポジウム開催場所となりました。



見附宿大会の二日目は、「徳川家康と東海道見附宿を訪ねて」という設定による歴史散策でした。

旧見付学校（日本最古の木造疑洋風小学校）や西光寺（徳

川家康の別荘であった中泉御殿の表門を移築した表門を持つお寺）などを見学し、JR磐田駅まで歩くと、そこで流れ解散となりました。



一日目、二日目の散策を通して、もう少し宿場町に焦点を絞って見学できればよかったですと思いました。いづれにしても、ボランティアガイドさんたちは一生懸命案内しておられました。心から感謝申し上げます。

高野山の仇討ち

小倉東町 平良 一郎

家が世襲していました。

私の母方の村上家は、この播州赤穂藩森家の家臣で儒者の家柄です。現代風にいうならば、さしずめ赤穂市の教育長といった役職でしょうか。

江戸末期の森家

江戸時代末期には、佐幕派の執政家老、森主税と参政の儒者、村上真輔の2人が実権を握り、藩政を行なっていました。

この村上真輔が、私の5代前の先祖になります。

文久2年(1862年)のこの年には、徳川幕府の末期的症狀ともいえる事件が数多く発生しています。

薩英戦争の発端となった生麦事件、坂本竜馬が襲撃された寺田屋騒動、皇女和宮が徳川家茂に降嫁、老中安藤信正

私の母方の先祖は、兵庫県赤穂市の出身です。

森家の播州赤穂

播州赤穂といえは、浅野家で有名ですが、その治世は3代86年間です。3代目の浅野内匠頭長矩で廃絶となり、以後、森家の治世が12代165

年間に及んでいます。森家が浅野家の2倍に近いのですが、「忠臣蔵」があまりにも有名になり過ぎて、赤穂ではそれ以外の歴史はほとんど無視されていきます。

森氏は美濃の豪族で、織田信長の家臣になった森可成や、その子で信長の小姓森蘭丸が有名です。

森家は徳川時代になって、外様大名として美作に領地を得ていましたが、刃傷沙汰で取り潰された播州浅野家の後任として、転封されてきました。

そしてこの地で明治2年(1869年)の版籍奉還、廃藩置県を迎えています。この藩の家老も、藩主一族の森

が襲撃された坂下門外の変など、世の中が騒然とした時代でした。

赤穂の暗殺事件

赤穂藩では、尊王派と称する西川升吉らの足軽13人が佐幕派の森王税と村上真輔を暗殺しました。

明治維新の5年前の出来事で、村上真輔は享年65歳。その村上真輔に失脚させられていた家老、森継之丞が藩政に復帰しました。

足軽（下級武士）が藩の重臣を暗殺したのですから、大罪なのですが、尊王派の家老が藩政を掌握しましたので、暗殺者13人はお咎めなしで赤穂藩を脱出、逆に殺害された村上家は、お家断絶となりました。

真輔には10人の子があり、

そのうち男は6人。兄弟の中で最も英明、豪胆と言われた次男の駱之助は、この不当な裁定に対して、藩の執政家老森継之丞に激しく抗議しました。これに激怒した森継之丞は、藩から駱之助に刺客を差し向けました。駱之助は抗議のための腹いせとして切腹して果てました。

やがて明治となり、藩の方針が変わって村上家断絶の処分が解かれ、扶持も正され、村上家の再興が許されました。そして真輔の長男の直内が相続をしました。

暗殺者捕縛命令

同時に暗殺者の13人には、藩から捕縛の命が下され、捕吏に討たれたり、自害した者もありました。残りは6人となりましたが、その6人は必

死に逃げ回っていました。しかし、村上真輔の息子たち、村上兄弟は、復讐の仇討ちを誓い、その機会を覗っていました。

その後、赤穂藩は、尊王派であった彼らの家老暗殺事件を明治の新体制の下、できるだけ穏便に片付けようとした。

暗殺者を高野山へ

その処理として、廢藩置県となる寸前に、暗殺者6人を藩主森家の墓守り役という名目で、藩の墓所である高野山釈迦文院へ預けることにしました。

西川邦次、八木源右衛門、吉田宗平、田川運六、山本隆也、山下鋭三郎ら6人の足軽たちです。

高野山は殺生禁断の地であ

り、刀を抜くことさえ許されないのです、ここへ逃げ込まれると仇を討つことはできなくなります。

仇討ちの決行

この情報を手した村上4兄弟は高野山へ先回りし、親戚3人に助太刀を頼み、7人が高野街道の神谷の辻で暗殺者待ち伏せしました。

池田農夫也(3男・33歳)、村上四郎(4男・30歳)、村上行蔵(5男・27歳)、村上六郎(6男・25歳)、津田勉(従兄・39歳)、水谷嘉二郎(甥・20歳)、赤木俊三(六郎の剣友・29歳)の7人です。

長男の直内は、その前年に病死(享年42歳)したため、その子、璋太郎が後を継いでいました。

仇討ちは明治4年2月30

日(旧暦)に決行されました。午前10時頃から、壮絶な戦いが始まり、30分くらいで、暗殺者6人全員が討たれました。村上兄弟は父親の位牌の前に6つの首を並べて、仇討ち本懐の報告をしました。村上兄弟側は、重傷3人、軽傷2人でした。

仇を討ち取った7人は、赤穂藩に戻って、赤穂義士の再来としてはやされて、丁重な待遇を受けていました。

仇討ちに死刑判決

ところが、その4カ月あまり後の明治4年7月14日、明治政府は在東京の知藩事(旧藩主たち)を皇居に集めて廃藩置県を命じました。

廃藩置県によって藩制度が消滅し、明治政府の新しい裁判制度の下で、裁判権が赤穂

藩から大阪裁判所に移行しました。裁判の結果、村上兄弟たちに死刑の判決が下されました。

このとき司法卿の江藤新平は、村上兄弟たちは殺人罪として死刑に値すると判断を示しています。三権分立が確立される前のことで、司法卿は法務大臣と最高裁判所長官を兼ねたような立場だったので、これに異論を唱えて無罪を主張したのが、参議の西郷隆盛で、武士道としての行為を高く評価しています。

仇討ち禁止令

この仇討ちが発端となって明治6年2月7日、太政官より「仇討ち禁止令」が發布されました。同時に、村上兄弟たちは死刑から禁固刑に減刑されました。さらに、5年後

には恩赦で釈放されました。以上が「高野山の仇討ち」のあらましです。

忠臣蔵を彷彿

被害者の村上家が処罰され、加害者たちは無罪という一方的な赤穂藩の処理は、この時から170年前の「忠臣蔵」における浅野家と吉良家との関係を彷彿させます。

村上兄弟は、赤穂藩の「仇討免許」を受けたかったようですが、出願をしても尊皇派家老たちによって却下されることは明白でした。

「忠臣蔵」が公儀(幕府)の不当な裁きに抗議するための仇討ちであったように、「高野山の仇討ち」は、藩の不当な裁定に対する義憤が大きな動機でした。

明治政府にとってはいきわめ

て快くない事件で、「無免許仇討ち」、すなわち私闘による殺人罪適用という厳しい判決になったようです。

赤穂では、仇討ちをした方が討たれた方、その両方の子孫が現存していますので、この仇討ちの話はタブーになっています。

平成23年9月4日、子のがかった村上鮎子(私の実妹)の他界により、村上家嫡流の後継者はいなくなり、断絶しました。

村上家に代々伝わる甲冑、その他の家宝など、遺品は鮎子の遺志によって、ことごとく赤穂市立博物館へ寄贈されました。

妹の供養と村上家のために、今後も「高野山の仇討ち」の正しい事実を調べて、後世に伝えたいと思っています。

万里荘記念碑文の訂正

前号の碑文表記に一部誤字がありました。下記の通り訂正させていただきます。

編集の都合上、1行の文字数は記念碑と異なります。赤文字は訂正後の文字。
青文字は劣化により判読不能のために推定した文字。

秩父宮雅仁親王同妃勢津子両殿下御假泊記念碑記
内閣総理大臣海軍大将正二位勲一等功二級子爵齋藤實是頒
昭和六年八月秩父宮雅仁親王殿下陸軍大学校学生ノ御資格ニ
テ第四師団工兵第四大隊ニ御入隊アラセラレ妃殿下ト俱ニ北
河内郡枚方町田中太介氏ノ別邸萬里荘ニ御假泊アラセラル時
正ニ盛夏炎暑ノ燬クガ如シ然モ殿下ハ日夕軍務ニ御精勵アラ
セラルノミナラス或ハ府下ノ人文史蹟ヲ探訪シ或ハ産業民情
ヲ視察シ以テ府民ヲ勸奨シ給フコト一箇月ノ久シキニ及ベリ
衆庶厥ノ威徳ヲ仰キテ感泣セサルナシ萬里荘ハ青雲ノ棚曳ケ
ル伊加賀ノ祠址ニ対シ蒼鬱タル林密ノ中腹ニ在リ松影參差ト
シテ緑竹猗猗タリ清泉庭ニ湧キ健鯉池ニ躍ル澗江溶溶其ノ麓
ヲ流シ郷邑遠ク開ケテ一望萬里遙力ニ近畿ノ秀麗ヲ渺茫ニ見
ル真ニ風光明媚ニシテ史實深趣ノ地ナリ主人翠華ヲ前ニ迎ヘ
テ感激措ク所ヲ知ラズ齋戒沐浴日夜神仏ノ加護ヲ祈リ家ヲ奉
ゲテ奉仕シ誠炯克ク大任ヲ完クセリ両殿下亦持テ其ノ經營セ
ル車両工場ニ臨マセラル後秋十月朝香宮鳩彦王殿下次イテ十
一月賀陽宮恒憲王殿下ノ御假泊ヲ仰ケリ一門ノ光榮何モノカ
旃レニ加ヘシ加ヘテ主人斯ノ榮譽ヲ子々孫々ニ傳ヘント欲シ
当時大阪府知事タリシ故ヲ以テ予ニ撰文ヲ求ム予喜ンデ之ヲ
諾シ謹ミテ其ノ梗采ヲ頌述スルコト爾リ

昭和九年陽春三月

貴族院議員正一位勲二等 永田善三郎撰文

新 入 会 員 紹 介

柳田	中橋	渡辺	久高	忽那	林	浜中	渡邊	北條	宇仁	大村	前田	佐々木	綱分	中村	西川	藤本	出村	伊豆田	西平	井上	西野	宮下
周三さん	博子さん	光永さん	悦子さん	幸子さん	廣明さん	敏夫さん	光男さん	利男さん	好秋さん	栄子さん	良明さん	巽さん	清美さん	千賀子さん	峯子さん	享一さん	彰子さん	敏和さん	則子さん	満さん	日出美さん	徳夫さん
茄子作	茄子作東町	北中振	中宮東之町	東中振	田口	北山	西禁野	黄金野	岡本町	大垣内町	宮之阪	楠葉面取町	交野市私部	渚東町	北中振	甲斐田町	茄子作	山之上	山之上西町	出口	招提南町	大垣内町